

境野黄洋選集

〔監修〕東洋大学 元学長 菅 沼 晃
〔編集〕境野黄洋研究会

●全10巻
●予約限定復刻

※本写真はイメージ写真ですので、実物とは若干異なります。

「境野黄洋選集」の刊行に寄せて



近代日本
仏教史研究会会長
池田英俊

境野黄洋（一八七〇―一九三三）は、「實際信仰の表白」の一文で「余が生まれし郷里は、余が生長せし時代に於いては非宗教的土地にして云々」、また家庭にあつては「漢学流の教訓のみに感染し、仏教を異端邪説なりと思ひ人を迷わすもの居信したり」と述懐している。幕末維新期に端を発した廃仏毀釈、欧化主義の開明思想に根ざす排仏的潮流は、十九世紀末葉から二十世紀初頭に至るまでなほ崩しに続けられていた。境野黄洋が論壇で活躍し、二十世紀初頭の近代思想と厳しく切り結ぶ姿を目の当たりにするのである。

従来の近代仏教史研究は清沢満之を中心とする真宗教団の動向が主流であるかのような印象を与えてきた。未開拓の領域の多い近代仏教にあつては、個別的研究、特に個人的研究の集積、文献や資料の刊行こそが研究史上の急務である。

境野黄洋はまず懐疑批評の精神に従つて従来の研究方法や信仰問題を検討し、「歴史的仏教」研究の視点を明確にするように努めている。このことは当時の仏教界を揺さぶった富永伸基以来の大乗非仏説論争の潮流を通して若干の混乱が見られたが、大乗仏教が始めて学問的な厳密性をもって原始仏教と対峙し、宗教性と信仰性を明確に把握し、歴史的研究の端緒を切開いた。したがつての貴重文献、資料を取録する「境野黄洋選集」の刊行は、学会にとつて待望久しいものである。

新仏教同志会の代表者境野黄洋は、機関紙「新仏教」を刊行するが、執筆者の中には主義主張を異にする清沢満之、幸徳秋水、ならびに前田慧雲・村上専精・斎藤唯信・鈴木大拙等の名を散見する。境野黄洋の提唱する新仏教同志会の六綱領にみる自由討究や批判的精神によつて描く世界は、近代日本の宗教改革へと躍進し得ないものがあったとはいえ、このことが却つて世紀末の現実に触れて目覚める人びとを、境野黄洋の傘下に集める契機となつたのである。

推薦のこぼ

「境野黄洋選集」を推薦します



学校法人
東洋大学常務理事
田淵順一

一八八七（明治二十）年、日本近代仏教の覚醒を目指した哲学者・井上円了は哲学館を創設し、若き学徒の教育に邁進しました。哲学館はこの後、東洋大学となり、発展して今日に及んでおります。この哲学館に十九才で入学した境野哲（ひとし、のち黄洋と号す）は、一八九二（明治二十五年）年七月、哲学館の卒業を終え、仏教学者としての道を歩み始めました。井上円了の哲学を實際に活用して仏教復興を図る教育方針は、境野らと同時に学んだ者たちに大きな刺激を与え、既成の大教団に頼ることなく、新たな仏教運動を起こそうとして、社会実践の場に踏み込んでいきました。健全なる信仰、理性ある仏教徒としての行動を通して、社会の根本的な改善を目指す主張は、当時、新仏教徒運動として大いに注目されました。自由討究によつて、仏教及び他宗教の客観的研究を進めること、国家権力からの自由である宗教、迷信を排する運動などから、後には、女性の地位向上を目指した娼婦運動にまで及びました。境野はこれらの運動の理論的根拠を提供するとともに、仏教各宗派の研究を深めていきました。一八九九（明治三十二年）年、母校哲学館の講師に迎えられ、印度哲学、仏教史などを講義し、以後、学生への教育は一九二二（大正十一年）年まで続きました。その間、境野は母校出身者として初めて第四代東洋大学長に就任しました。

その後、境野は、駒沢大学や立正大学で教壇に立ち、一九三三（昭和八年）年没するまで、倦むことなく、研究・著述に努め、仏教学者として、前人未踏の業績を打ち立てました。著書・論文は数えるも不可能なほど、多岐、多数に上つています。今この膨大な業績の中から珠玉の数点のみが選集として刊行されることに、改めて祝意を寄せたいと思います。

このたび菅沼晃教授を代表として、境野黄洋研究会が発足し、選集十巻の刊行が企画されたことを聞いて、慶びに堪えない。仏教研究が現代とのかかわりの意識を昂めて進められねばならないという見解は、この頃、しばしば聞かれるところであるが、数年前、東洋大学を当番校として日本印度学仏教学会が開催された際、このたびの企画の代表者である菅沼晃教授が、近代仏教研究の特別部会を企画され、筆も促されて拙論を報告したことがある。その際、東洋大学の創始者である井上円了先生をはじめ、近代仏教研究を樹立した原坦山先生の事績などにスポットライトがあてられた貴重な報告が発表されたのであった。近代仏教研究の成果の見直しが、この企画を端緒として展開されることを期待したいところである。

「境野黄洋選集」発刊を慶ぶ



渡邊寶陽

境野黄洋先生は村上専精、前田慧雲、島地大等ら諸先師と並んで、仏教学の大家として著名であるが、恩師村上専精先生を仏教史学の祖として讀み、東洋大学がまだ哲学館であった頃、井上哲次郎先生から哲学を学んだことを誇りにしていたという。あたくも没後七十年を期して、後学によつて先生の業績があらためて顕彰されることを心からの慶びとするものである。

境野黄洋先生は諸大学において講義をされているが、逝去の二年前、昭和六年度に立正大学においても支那仏教史を講じておられる。当時はおそらく辺鄙であつたであろう品川区大崎の学舎に向かい、その蘊奥を傾けられた学恩に心からの感謝と敬意を表したい。

なお、出版事情困難な折り、江湖の有識者・研究者にこのたびの企画が大きな刺激を与えると同時に、大方の購読を期待したいものである。

境野黄洋研究会

| | |
|-----|-----------------------------|
| 代表 | 菅 沼 晃 (東洋大学元学長) |
| 会 員 | 森 章 司 (東洋大学教授) |
| | 針 生 清 人 (東洋大学教授) |
| | 木 村 得 玄 (禅林寺住職・東洋大学校友会事業部長) |
| | 羽 島 知 之 (東洋文化新聞研究所代表) |
| | 渡 辺 章 悟 (東洋大学教授) |
| | 三 浦 節 夫 (東洋大学教授) |
| | 伊 吹 敦 (東洋大学助教授) |
| | 大 谷 栄 一 (国際宗教研究所研究員) |
| | 佐 藤 厚 (東洋大学講師) |
| | 飯 塚 勝 重 (共立女子短期大学講師) |
| | 川 口 和 美 (東洋大学校友会事務局長) |

本書の特色

- 本書は、「中国篇」「日本篇」「仏教全般篇」「社会思想篇」「論集篇」に分類し、著者生涯の研究成果と代表作を選集した。
- 本書は、各巻に著者の学統に連なる当代の権威による「解説」を付し、著者の学問的世界を解明し、その現代的意義を明らかにする。
- 本書は、正字旧かなとし、発表当時の雰囲気そのまま伝えるように工夫した。※但し、「論集篇」は、新字体とした。
- 本書は、予約出版です。予約お申込みの方のみお頒ちいたします。

仕様・体裁

- ◆A5判・上製本・貼箱入
- ◆総 頁…6,000頁、各 巻…600頁
- ◆各巻「解説」付
- ◆隔月刊行・10回配本
- ◆送料小社負担 ◆分売不可
- ◆予約締切日……平成15年3月末日
- ◆刊行予定日……平成15年4月
- ◆ご予約方法……「申込ハガキ」に必要事項をご記入の上、ご投函下さい。

(発 売) 佛教学図書出版

う し お 書 店

〒949-4352 新潟県三島郡出雲崎町大門164-7
TEL 0258 (78) 2155
FAX 0258 (78) 4243

境野黄洋 選集 全10巻 の構成



※晩年の黄洋翁

(写真提供/東洋大学井上円了学術記念センター)

中国篇 ※《価格税別》

- 第一巻 〈解説…伊吹 敦〉 価格 10,000円
『中国仏教Ⅰ』(『中国仏教精史・上』)
- 第二巻 〈解説…伊吹 敦〉 価格 10,000円
『中国仏教Ⅱ』(『中国仏教精史・下』)
- 第三巻 〈解説…佐藤 厚〉 価格 13,000円
『中国仏教Ⅲ』(『中国仏教史講話』)

日本篇

- 第四巻 〈解説…菅沼 晃〉 価格 13,000円
『日本仏教史講話』
- 第五巻 〈解説…田村晃祐〉 価格 10,000円
『聖徳太子の研究』
『増補・聖徳太子伝』

仏教全般篇

- 第六巻 〈解説…渡辺章悟〉 価格 10,000円
『維摩経・勝鬘経講義』
- 第七巻 〈解説…佐藤 厚〉 価格 10,000円
『八宗綱要講話』

社会思想篇

- 第八巻 〈解説…森 章司〉 価格 13,000円
『日本仏教発達概観』
『大乘仏教の五大主義』
『仏教講話』

論集篇

- 第九巻 〈解説…大谷栄一〉 価格 16,000円
『黄洋論集・Ⅰ』
- 第十巻 〈解説…針生清人〉 価格 16,000円
『黄洋論集・Ⅱ』
『著作目録・年譜』 〈飯塚勝重・三浦節夫〉